



とっとり

公益財団法人
鳥取県国際交流財団
Tottori Prefectural International Exchange Foundation
公益財団法人鳥取県国際交流財団

国際通信

No.133
Mar. 2020

TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN 鳥取国際通讯



表紙 Photo

「多文化共生フォーラム in 米子」(2/16)

The Multicultural Forum in Yonago (2/16)
多様文化共生研究会(2/16)

⇒ Pick UP! ⇐

「多文化共生フォーラムin米子」の詳細は2ページをご覧ください。



目次 Contents / 目录

● TPIEF だより

事業の開催報告

- 多文化共生フォーラムin米子 02・03
- 多文化共生ネットワーク連携事業 03
- 協働事業「みんなで交流 in よなご」 03
- 鳥取県海外交流事業派遣者報告会 04
- 医療通訳ボランティア講座 05

令和2年度 財団の主な事業紹介 04・05

とっとりじん

- われら“鳥取人” 06
- 国際交流民間団体の紹介 07

● 山陰・夢みなと博覧会記念基金助成事業の紹介 07

● JICAデスクより 07

● 英語版・中国語版ダイジェスト 08・09

Information in English and Chinese

The Multicultural Forum in Yonago
Term 1 Japanese Language Classes

英文版・中文版文摘

多文化共生研究会in米子
第一期 日语学习班的通知

● 賛助会員募集のご案内 10

● ワールドレシピ 10

多文化共生 フォーラム@米子

サヘル ローズさんからは、ご自身の幼少期の出来事や体験、小学校での外国出身者でありがちな間違っってしまった体験などを話されました。

また、その頃に会った人との繋がり、支援のありがたさ、そして日本人への必要なサポートなど、幅広く、本当に心に残る、参加者に感動を与えるお話をしていただきました。



基調講演

「出会いこそ生きる力」
～夢をつなぐ 心をつなぐ～

女優 サヘル ローズさん

参加者の声

人と人という最も基本的な関係を大切にすることで、多文化共生が実現できることが実体験から伝わった。

多文化共生という言葉が初めて聞いて、新しい視点だなと感じた。交流が進んでくるとこうなるのかと改めて思った。

幼少期のつらい体験や感動的な出会いのお話を聞き、周囲でつらい思いをしている人への思いやりと行動力の大切さを感じた。

サヘルさんのお母さんの信念を持った生き方に感動。サヘルさんもきっとその影響を受けたのだろう。私も親として差別のない、できるだけ親切でありたいと思った。多くの人と交流を持ち、他国を知っていききたい。

TPIEF パネルディスカッション 「外国人とともに暮らす～今とこれから～」

基調講演に続き、一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事の田村太郎さんをファシリテーターに、県内在住の3名の方をパネリストとして、「外国人とともに暮らす～今とこれから～」と題し、パネルディスカッションを開催しました。

開会にあたり、田村さんから来場者に向けて日本人と外国出身の人がどのようにコミュニケーションをとっていけば、鳥取がだれでも住みやすい地域になるのかというヒントをお互いに知る機会にさせていただけたらとの話で始まりました。

パネリストからは、来県時に困ったこととして、やはり日本語の壁や、子供の教育、特に先生とのコミュニケーションやPTA活動に対する負担感、また交通の不便さなどへの指摘がありました。一方で、外国人の方が来日した初期の段階に、必要な情報を提供し、集中して日本語が学べるようなシステム、環境があればよいのではないかな等との意見があり、ファシリテーターの田村さんから各自自治体での先進事例等の紹介や外国人の文化を理解し丁寧な説明等を行う重要性など、様々な助言等をいただきました。



ファシリテーター

一般財団法人ダイバーシティ研究所
代表理事 田村 太郎 さん

パネリスト

石破 バージニア さん
(八頭町在住)

ラmensカヤ アナスタシア さん
(倉吉市在住)

井岸 昌世 さん
(米子市在住)



石破 バージニア さん
(フィリピン出身)

- 困ったことは言葉が一番。そして、子供の教育。
- 車の免許を取るための自動車学校では内容や意味が分からず大変だった。
- 来県当時、国際交流財団の存在をもっと早く知っていたら、学校や地域でコミュニケーションが早く取れていたかも。



ラmensカヤ
アナスタシア さん
(ロシア出身)

- 困ったことは、言葉の問題と学校の先生とのコミュニケーション。
- 日本の料理もテレビ番組で覚えるとともに、そのことが日本語の勉強にもなった。
- 学校で先生となかなかコミュニケーションが取れなかったことがあり、丁寧な説明や気遣いがあればよかった。



井岸 昌世 さん

- 外国人の方が困っていることすべての悩みは言葉ができるようになれば解決するのでは。
- 外国人が日本語を勉強しようと思っても機会がなかったり、通えないこともあるので、こちらから出張するシステムがあってもいいのでは。

来場者へ向けたメッセージ

● 石破さん * * *

これから(外国人)研修生等がたくさん来られ、不安や心配に思うことがたくさんあると思いますが、今は自分の壁になりそうなこともネットで調べることができます。安心して、友達を作ったり、財団の日本語クラスで日本語を勉強したりでき、環境も生活も少しずつ良くなっていくと思います。日本人の方へは、やさしい日本語で、ジェスチャーを含めて、少しわかりやすくしてほしいです。

● アナスタシアさん * * *

基調講演で愛について話があったが、遠くから来た人や体の不自由な人、お金のない人など広い心をもって愛せる人になろうと思います。

● 井岸さん * * *

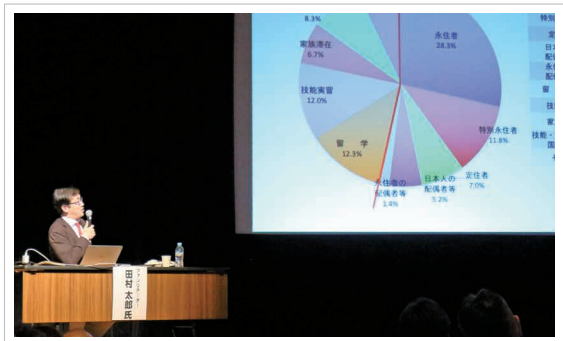
周りにいる外国人の方からよく「日本ってさみしいね」と言われます。誰も声をかけてくれないと。日本人の方から声をかけてくれるのを待っている外国人の人は多いと思うので、困っていきそうな人には一歩踏み出して声を掛けていただきたいです。



まとめ「グローバル社会における地域のあり方と多文化共生」

● ファシリテーター / 一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎 さん

- 「総合的対応策」として政府は予算を付けたが、急に人材は増えない。通訳者や日本語教育支援者の育成と確保が必要。
- アジアの経済成長で、給与の面でも働く場所としても日本の魅力は昔ほど高くない。来日目的も「就労」から「観光」にシフトしているのが現状。
- ベトナム語やネパール語を話せる日本人を探すのは本当に難しいが、ベトナム人やネパール人で日本語がわかる人はそこそこいる。外国人の永住者も毎年2~3万人増加しており、留学生の就職者も毎年2万人余りいる。多文化共生の地域づくりに外国人の力を借りることが重要ではと提案している。
- 鳥取が多文化共生の社会になるには、外国人を情報やサービスの対象者としてとらえるだけでなく、提供者側に参画してもらうことがとても重要である。
- 多文化共生は「外国人住民のため」にやることではなく、「地域の未来のため」にやることである。外国人住民の方にも「自分たちが鳥取の未来を創るんだ」という認識で、一緒に多文化共生を進めていただきたい。



多文化共生ネットワーク連携事業 協働事業 「みんなで交流 in よなご」

2月16日(日)「多文化共生フォーラムin米子」が開催された日は、もう一つの事業、多文化共生ネットワーク連携事業協働事業「みんなで交流inよなご」を開催しました。

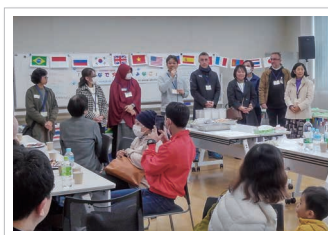
この事業は、県内在住の外国出身者18名から構成される「多文化共生ネットワーク会議」によってさまざまな意見が出る中、県内外国出身者同士がともに学び交流できるイベントとして毎年開催するものです。当日は、鳥取市、倉吉市、米子市と県内3箇所から大型バスが出発し、総勢100名、14カ国出身の方がたご家族・関係者の方が参加されました。

まず昼食交流として鳥取県栄養士国際交流同好会の皆さんにご協力をいただき、日吉津村の会場にて見た目も鮮やかな「カラフルカップライス」とボリュームたっぷりの「味噌汁団子」をいただきました。食事は会場にbuffet形式で準備し、自分好みの盛り付けを楽しめるようにしました。県内各地域から集まった参加者は、初めての出会いもあれば久しぶりの再会もあり、それぞれに交流を楽しんでいる様子でした。午後になると、多文化共生フォーラムの会場へ移動し、サヘル・ローズさんによる基調講演や外国出身者等によるパネルディスカッションを皆で一緒に観覧しました。

参加者の感想



▲当日のメニュー



▲多文化共生ネットワーク委員のみなさん

鳥取県海外交流事業 派遣者報告会 [1/19日]

～鳥取県・バーモント州青少年交流事業、
内閣府青年交流事業のコラボ～

鳥取県から米国バーモント州に派遣された高校生15名は、報告会の中で4つのテーマ(ホームステイ体験、環境研修、学校交流体験、州政府訪問)について感想や今後の抱負などの発表のほか、現地で披露した手話パフォーマンスを披露するなどして、会場を和ませました。

内閣府青年交流事業は、民間交流団体「とっとり青友会」が県内の青年を推薦、実施していますが、今年は日本・韓国青年親善事業に副団長として派遣された大谷博美さんと「地域コアリーダープログラム」(高齢者福祉)でオランダに派遣された中田純平さんが、現地での体験したことや思いを発表しました。

また、それぞれの発表の休憩時には、それぞれの派遣地のお菓子や飲み物が楽しめるティーブレイクもあり、派遣者と参加者が体験等を語り合うひとときもありました。

▲オランダでの体験を語る中田純平さん



▲バーモント州派遣生徒の手話パフォーマンス



▲韓国青年親善交流事業に参加した大谷博美さんの発表



▲派遣地のお菓子を楽しむティーブレイクも好評!

「医療通訳ボランティア講座」を開催! [2/24 月・祝]

当財団では平成21年度から医療通訳ボランティアの派遣をしていますが、今回は、新規ボランティアの養成と、活動中のボランティアのフォローアップを目的とした講座を、東京を拠点に医療通訳派遣や遠隔通訳サービスを行っている企業の講師を招き開催しました。

講座では通訳者に必要な通訳技術、通訳者の役割、通訳倫理など、医療通訳者として必要な基礎知識を学んだ後に、遠隔地にいる医者役・患者役を相手に医療通訳ロールプレイ(役割練習)をしました。

受講者からは「語彙力以上にコミュニケーション能力の大切さがわかった」、「医療従事者・患者目線とも違う、中立的な立場になり、自分の意見を加えない事の大切さを感じた」などの感想が聞かれました。



▲講師から基礎知識を学びます



▲通訳ロールプレイ

令和2年度

財団の主な事業紹介

～多文化共生のまちづくりを目指して～



【(拡充)「専門通訳ボランティア育成事業」】

財団では、外国出身者が言葉が通じず困ったときのために“専門通訳ボランティア”を公的機関(学校、市役所・役場、幼稚園・保育園など)や病院等へ派遣しています。この専門通訳ボランティアとして活動いただく方へのより専門性の高いスキルアップ研修を実施し、よりよい通訳表現や技術の向上を図るとともに、参加者同士の情報交換や交流できる場となる講座を開催します。(時期・開催地は追ってお知らせします)また新たに、講座を通じ、更に自主的な勉強会等を実施する場合は、その依頼に応じて講師派遣や会場確保の支援を行う予定です。



【地域における日本語教育支援者養成講座】の開催



県内在住の外国出身者が増加する一方で、日本語を教える人材の不足が叫ばれ、また教える人材の資質や能力等を求められる状況にあります。このような中で、「日本語教育支援法」の趣旨に合わせながら、日本語教育支援者を確保していくための総合的な知識や技能を習得するための講座を開催します。また、外国にルーツを持つ児童生徒に対し、現在活動中の日本語支援活動者を対象に、意見交換やスキルアップのための研修を開催することで、活動者同士のネットワークの形成や自発的学習会立ち上げに対する支援を行います。(時期・開催地は追ってお知らせします)



【地域の多文化共生推進のための交流会】の開催

「外国出身の方に日本文化をより理解していただくにはどうしたらよいか」や、「地域の方々と外国出身者の交流の場が少ない」等との意見を伺うことがあります。そこで、このたび、日本文化や習慣について学べるセミナーや体験コーナーを設けるなど、外国出身の方であればどなたでも参加していただける機会を設け、県民の皆さんと一緒に楽しみながら、学びや交流していただく交流会を開催します。

● 時期・開催予定地：7月頃、鳥取市(予定)

第1期 日本語クラスのご案内

日本語ボランティアとして支援していただける方も随時募集しています。関心をお持ちの方は、各事務所までお問い合わせください。(学習者と同じテーブルにつき、補助的な説明や会話練習の相手役をお願いしています。)

受講料：無料

クラスによって別途テキスト代が必要です



日本語クラス(西部)の様子

エリア	日時等	会場		
東部 (本所)	基礎1クラス	9:30-11:00		
	基礎2クラス	11:00-12:30		
	初級1クラス(会話)	13:00-14:30		
	初級2クラス(生活漢字)			
	中級クラス	14:40-16:10		
子どもほんごクラス	13:00-16:00			
中部 (倉吉事務所)	水曜日	水曜日クラス(初級)	13:30-15:00	鳥取県中部総合事務所別館 (倉吉市東蔵城町2)
	日曜日	日曜日クラス(基礎)	13:30-15:00	鳥取県立倉吉体育文化会館 (倉吉市山根529-2)
	日曜日クラス(初級)	15:15-16:45		
西部 (米子事務所)	日曜日	基礎クラス	10:15-11:45	米子コンベンションセンター (米子市末広町294)
		初級クラス		

※新型コロナウイルス感染症対策のため、開始日は5月以降に延期する予定です。
実施期日等については、財団ホームページまたは電話等で各事務所にお問い合わせください。

【問合先】：鳥取県国際交流財団 各事務所 (連絡先は最後のページをご覧ください)